TÜVRheinland®
Precisely Right.

「理想科学工業 環境経営報告書 2015」第三者審査報告書

理想科学工業 株式会社
代表取締役社長　羽山　明　殿

2015年7月8日
テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
代表取締役社長　ホルガート・クンツ

1. 審査の範囲及び目的並びに対象

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が作成した『 理想科学工業 環境経営報告書 2015 』及び『 ＷＥＢ掲載の環境データ 』に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

2. 審査の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで審査を実施致しました。

(1) 環境マネジメントの概要 ： 組織の状況、運用の概況及び収集されるデータ項目を把握し、検討致しました。
(2) データの収集・集計および報告の過程 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報・データの収集過程・集計方法を検討致しました。
(3) データの正確性 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検討致しました。
(4) 記載情報の正確性、重要な情報の網羅性 ：作成責任者への質問、現場視察による状況把握、内部資料および外部資料との比較検討を実施し、報告書に記載されている記述情報について、正確性及び重要な情報が網羅されているかについて、確認致しました。

当審査機関の報告書審査プロセスは、当社ＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001の現地監査、組織の報告書ドラフトの文書審査、組織の現地での報告書審査 、是正処置要求項目の是正が実施された組織の報告書最終稿の確認、により構成されます。審査のプロセス及び、審査の過程に於ける是正処置要求と組織の対応の概要及び結果報告の詳細は精査され、ISOの審査登録の状況については当審査機関のホームページ（ http://www.tuv.com/ ）に公開されています。

以上の手続きの結果、当社は結論を表明するための合理的な基礎を得たと判断しています。

なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン、ＧＲＩサステナビリティリポーティングガイドライン、環境省 環境報告書作成基準、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

本報告書現地審査訪問拠点：　理想開発センター　筑波事業所

ＩＳ09001：２００８及びＩＳ014001：２００４ における現地審査訪問拠点：
本社部門ー事業所（ コーポレート本部、田町／コーポレート本部、芝浦／宣伝部 ）、プリントクリエイト事業部ー事業所（ 新橋、日本橋／ RISO STUDIO 日本橋店、板橋／プリントサービス部 ）、海外営業本部ー事業所（ 田町[徳栄]／海外技術部 ）、営業本部ー事業所（ 田町、田町[徳栄]／技術統括部、芝浦／営業教育部 ）、開発本部ー事業所（ 理想開発センター／知的財産部、田町／開発企画部 ）、製造本部ー事業所（ 筑波／筑波工場・霞ヶ浦工場・生産技術部・製造企画部・品質保証部・環境活動推進部・物流部・購買センター、霞ヶ浦／霞ヶ浦工場・リサイクルセンター・物流部パーツセンター、宇部／宇部工場・物流部宇部出荷センター ）、不動産事業部

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『 理想科学工業 環境経営報告書 2015 』及び『 ＷＥＢ掲載の環境データ 』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

4. 意見

【 総評 】

昨年に発行された 2014 年版環境経営報告書が環境省／(財)地球・人間環境フォーラムが主催する『 環境コミュニケーション大賞-環境報告書部門 』の優良賞を受賞しました。受賞を機にして社会から期待される一段高いレベルでの取り組みを目指して更なる継続的な改善が望まれます。また、コーポレートガバナンス・コードが東京証券取引所によって整備され、その中で非財務情報開示が奨励されています。既に環境を中心とした CSR 情報開示のプラットフォームを有し、先行している現状を踏まえてあるべき非財務情報開示に向けて「新たに補うべき項目」と「充実させる項目」とを見定めることが重要です。今回の 2015 年版では下記の論点が提示され、更なる飛躍が期待できる基盤が整いつつあります。

- 3 つのコア技術に言及し、環境技術を中心とした強みと環境貢献を語る形態が定着ししつある
- 環境経営についてパフォーマンスマネジメントシステムに対する理解が深まっている
- 低炭素社会の実現、循環型社会の実現、海外事業所での取り組み、など開示すべき論点が押さえられている

【 環境関連 】

- 今回も集計データの信憑性が継続的に改善していることを確認しました。過去に報告済みのデータについても訂正すべきものを把握のうえ、PDCA を回して改善に取り組み説明責任を果たしていく姿勢を高く評価します。
- 従来の中期計画に沿って高い目標を設定のうえ鋭意努力して継続的改善の成果を出してきたことを確認しました。残念ながら目標は未達となる見通しですが、最終年である 2015 年度が終わる前に PDCA を回して新規中期計画を再設定して環境改善に取り組んでいる姿勢は審査の過程で確認することができました。ただし、本報告書にはそのことが充分に開示されているとはいえずステークホルダーとの対話をさらに充実することが今後の課題と言えるでしょう。
- 「環境経営報告書 2014」が環境報告書部門で優良賞を受賞したことを高く評価します。
- コーポレートガバナンス・コードが 2015 年 6 月 1 日から適用開始されています。環境経営報告書を引き続き充実させてステークホルダーとの「対話」を推進することが望まれます。

【 社会的な取り組み関連 】

企業の社会的責任に鑑みた取り組みがなされ、現状で期待される項目が掲載されていますが、非財務情報開示としてより一層の改善を行うために下記のような論点を今後の取り組みで充実されることを望みます。

- 設計開発から始まる一連のプロセスにおいて CSR 上でポイントとなる論点を読者にもわかりやすく明示する
- 海外拠点における取り組みの有効性を高め、その有用性を読者にもわかりやすく明示する
- 持続可能性に関する記述と CSR 経営を支えるビジョンを読者にもわかりやすく訴求する

【 環境会計関連 】

環境会計情報の集計プロセスを有効に維持し、環境経営の継続的な改善に有益な影響を与えていることを評価し、継続的な改善を期待しています。環境パフォーマンスと貨幣情報を対比する環境会計の原理を応用した取り組みに期待します。

以　上